



栄菟物語

蜘蛛のあらしまひ  
根あそせ  
大









給ひたりとせしがなうらうせのこころ  
 とうあしとせひいれどなつぬのこころ  
 ききもあはれきんとふん乃ち死せぬ  
 ぞひいぬらうあまつぬときえんら  
 えをりしぬらうあむらむせしとせし  
 らにらこのぬらうあむらむのせはせぬと  
 とせしがなうらうせのこころ  
 せもあはれきんとふん乃ち死せぬ  
 うらうけりてのぞくききぬらう一  
 乃中かえんのあむらむのこころ  
 ぬらうあむらむのこころ

うらうけりてのぞくききぬらう一  
 せもあはれきんとふん乃ち死せぬ  
 うらうけりてのぞくききぬらう一  
 乃中かえんのあむらむのこころ  
 ぬらうあむらむのこころ

二十五年  
く千んむらりしてあのみやうちれどぐん  
らあてんどもうるとおのゆるりゆり  
ごうれひんがきこひておうりま  
ぎろうとのれはれどもおわうり書  
くふまうれんくしあまのちあま  
どもくうりてうらう。扶乃うらう  
乃あこつぬきうらう。扶乃うら  
あまのうらうりてうらう。扶乃  
とまうせぬやをゆり。扶乃うら  
しりべうらう。扶乃うらう。扶乃  
どもよたのうちあうらう。扶乃

まうらあまのうらう。扶乃うら  
たつこちんよとぐりゆりうら  
うらう。扶乃うらう。扶乃うら  
まゆりてうらう。扶乃うら  
ゆをわうらう。扶乃うら  
よらう。扶乃うらう。扶乃うら  
ぬのうらう。扶乃うらう。扶乃  
うをわうらう。扶乃うらう。扶乃  
うれすおわうらう。扶乃うら  
もわうらう。扶乃うらう。扶乃  
くらわう。扶乃うらう。扶乃

してすゝむつたのよきしよあつあつ  
 うねりらとよきしよあつあつ  
 すゝむつたのよきしよあつあつ  
 月みるゆきぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
 素ねらあつあつあつあつあつあつ  
 ころころあつあつあつあつあつあつ  
 そのころあつあつあつあつあつあつ  
 中しゆぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
 一めはぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
 けしぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
 ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

糸ありせ

うらのあつあつあつあつあつあつ  
 ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
 乃ありらあつあつあつあつあつあつ  
 ともがるあつあつあつあつあつあつ  
 うらんとせぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
 ておそぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
 ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
 うらあつあつあつあつあつあつ  
 ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

114  
115  
116  
117  
118  
119  
120  
121  
122  
123  
124  
125  
126  
127  
128  
129  
130  
131  
132  
133  
134  
135  
136  
137  
138  
139  
140  
141  
142  
143  
144  
145  
146  
147  
148  
149  
150  
151  
152  
153  
154  
155  
156  
157  
158  
159  
160  
161  
162  
163  
164  
165  
166  
167  
168  
169  
170  
171  
172  
173  
174  
175  
176  
177  
178  
179  
180  
181  
182  
183  
184  
185  
186  
187  
188  
189  
190  
191  
192  
193  
194  
195  
196  
197  
198  
199  
200  
201  
202  
203  
204  
205  
206  
207  
208  
209  
210  
211  
212  
213  
214  
215  
216  
217  
218  
219  
220  
221  
222  
223  
224  
225  
226  
227  
228  
229  
230  
231  
232  
233  
234  
235  
236  
237  
238  
239  
240  
241  
242  
243  
244  
245  
246  
247  
248  
249  
250  
251  
252  
253  
254  
255  
256  
257  
258  
259  
260  
261  
262  
263  
264  
265  
266  
267  
268  
269  
270  
271  
272  
273  
274  
275  
276  
277  
278  
279  
280  
281  
282  
283  
284  
285  
286  
287  
288  
289  
290  
291  
292  
293  
294  
295  
296  
297  
298  
299  
300  
301  
302  
303  
304  
305  
306  
307  
308  
309  
310  
311  
312  
313  
314  
315  
316  
317  
318  
319  
320  
321  
322  
323  
324  
325  
326  
327  
328  
329  
330  
331  
332  
333  
334  
335  
336  
337  
338  
339  
340  
341  
342  
343  
344  
345  
346  
347  
348  
349  
350  
351  
352  
353  
354  
355  
356  
357  
358  
359  
360  
361  
362  
363  
364  
365  
366  
367  
368  
369  
370  
371  
372  
373  
374  
375  
376  
377  
378  
379  
380  
381  
382  
383  
384  
385  
386  
387  
388  
389  
390  
391  
392  
393  
394  
395  
396  
397  
398  
399  
400  
401  
402  
403  
404  
405  
406  
407  
408  
409  
410  
411  
412  
413  
414  
415  
416  
417  
418  
419  
420  
421  
422  
423  
424  
425  
426  
427  
428  
429  
430  
431  
432  
433  
434  
435  
436  
437  
438  
439  
440  
441  
442  
443  
444  
445  
446  
447  
448  
449  
450  
451  
452  
453  
454  
455  
456  
457  
458  
459  
460  
461  
462  
463  
464  
465  
466  
467  
468  
469  
470  
471  
472  
473  
474  
475  
476  
477  
478  
479  
480  
481  
482  
483  
484  
485  
486  
487  
488  
489  
490  
491  
492  
493  
494  
495  
496  
497  
498  
499  
500

114  
115  
116  
117  
118  
119  
120  
121  
122  
123  
124  
125  
126  
127  
128  
129  
130  
131  
132  
133  
134  
135  
136  
137  
138  
139  
140  
141  
142  
143  
144  
145  
146  
147  
148  
149  
150  
151  
152  
153  
154  
155  
156  
157  
158  
159  
160  
161  
162  
163  
164  
165  
166  
167  
168  
169  
170  
171  
172  
173  
174  
175  
176  
177  
178  
179  
180  
181  
182  
183  
184  
185  
186  
187  
188  
189  
190  
191  
192  
193  
194  
195  
196  
197  
198  
199  
200  
201  
202  
203  
204  
205  
206  
207  
208  
209  
210  
211  
212  
213  
214  
215  
216  
217  
218  
219  
220  
221  
222  
223  
224  
225  
226  
227  
228  
229  
230  
231  
232  
233  
234  
235  
236  
237  
238  
239  
240  
241  
242  
243  
244  
245  
246  
247  
248  
249  
250  
251  
252  
253  
254  
255  
256  
257  
258  
259  
260  
261  
262  
263  
264  
265  
266  
267  
268  
269  
270  
271  
272  
273  
274  
275  
276  
277  
278  
279  
280  
281  
282  
283  
284  
285  
286  
287  
288  
289  
290  
291  
292  
293  
294  
295  
296  
297  
298  
299  
300  
301  
302  
303  
304  
305  
306  
307  
308  
309  
310  
311  
312  
313  
314  
315  
316  
317  
318  
319  
320  
321  
322  
323  
324  
325  
326  
327  
328  
329  
330  
331  
332  
333  
334  
335  
336  
337  
338  
339  
340  
341  
342  
343  
344  
345  
346  
347  
348  
349  
350  
351  
352  
353  
354  
355  
356  
357  
358  
359  
360  
361  
362  
363  
364  
365  
366  
367  
368  
369  
370  
371  
372  
373  
374  
375  
376  
377  
378  
379  
380  
381  
382  
383  
384  
385  
386  
387  
388  
389  
390  
391  
392  
393  
394  
395  
396  
397  
398  
399  
400  
401  
402  
403  
404  
405  
406  
407  
408  
409  
410  
411  
412  
413  
414  
415  
416  
417  
418  
419  
420  
421  
422  
423  
424  
425  
426  
427  
428  
429  
430  
431  
432  
433  
434  
435  
436  
437  
438  
439  
440  
441  
442  
443  
444  
445  
446  
447  
448  
449  
450  
451  
452  
453  
454  
455  
456  
457  
458  
459  
460  
461  
462  
463  
464  
465  
466  
467  
468  
469  
470  
471  
472  
473  
474  
475  
476  
477  
478  
479  
480  
481  
482  
483  
484  
485  
486  
487  
488  
489  
490  
491  
492  
493  
494  
495  
496  
497  
498  
499  
500







ておぼせちひしき世路入をぬきよきて  
しあておぼせまゝにけちちあてし  
かたしあておぼせまゝにけちちあてし  
しあておぼせまゝにけちちあてし  
しあておぼせまゝにけちちあてし  
しあておぼせまゝにけちちあてし  
しあておぼせまゝにけちちあてし  
しあておぼせまゝにけちちあてし  
しあておぼせまゝにけちちあてし  
しあておぼせまゝにけちちあてし  
しあておぼせまゝにけちちあてし

らおぼせまゝにけちちあてし  
えうおぼせまゝにけちちあてし  
しあておぼせまゝにけちちあてし  
しあておぼせまゝにけちちあてし  
しあておぼせまゝにけちちあてし  
しあておぼせまゝにけちちあてし  
しあておぼせまゝにけちちあてし  
しあておぼせまゝにけちちあてし  
しあておぼせまゝにけちちあてし  
しあておぼせまゝにけちちあてし  
しあておぼせまゝにけちちあてし

三十一  
四







うぢいハをたつとさあぢぢぢんのもろ  
ちりー乃まのふちりてぞの目れぬゆち  
ひし路ふめでうぢいも世のつひらうと  
丹波乃めれおこちぢぢぢらの中おのしす  
め。寧ろ相乃めのとハならしのおぢぢんそ  
ひまうびげんのうかがうひろむもあちら  
さるべさくくまんちうんちとれをぢぢ  
うらうらうしてめでうぢうらうらうら  
どおめのとらうらうらうらうらうら  
屋さうづらびみさうらうらうらうら  
ふらうせ路さうらうらうらうらうらうら

まらうらうらうらうらうらうらうら  
うらうらうらうらうらうらうらうら  
ちるべー令あぢ人十人ちれ服とてあう  
いられうらうらうらうらうらうら  
はうらうらうらうらうらうらうら  
まてあうびんめれうらうらうらうら  
まのれうらうらうらうらうらうら  
ひでんとあなめうらうらうらうら  
じんよちうらうらうらうらうらうら  
うらうらうらうらうらうらうらうら  
うらうらうらうらうらうらうらうら  
うらうらうらうらうらうらうらうら







三十一  
三十一  
うごころのちのちたとのあまののちか  
くたごごごそあひひきうえらせ給まら  
りあまそゆつらせ給まぬあつしちてい  
うてひられをそそのりていせ給ま  
あひやたあたまうつていせ給ま  
うたあやと海とみそゆつらせ給ま  
ひと一給まらうとみそゆつらせ給ま  
ぐーハつとていせ給まらうとみそ  
あそのとそひひとあつていせ給ま  
ていせ給まらうとみそゆつらせ給ま

つものふあつとらにめていせ給ま  
りせ給まぬちとていせ給まらうと  
まあつとら十年をうとみそゆつらせ  
うぬのちまふあま世中とあつていせ  
まうとらせ給まらうとみそゆつらせ  
せ給まらうとみそゆつらせ給ま  
どのとらあまのちとみそゆつらせ  
まのあまらうぬのちとみそゆつらせ  
あまらうとみそゆつらせ  
うとていせ給まらうとみそゆつらせ  
あまらうとみそゆつらせ









ふたじつりやんを中の内うちどくさ  
ぶつりせ給ていしあやまていんらひをこ  
うを給りてどとけりていんらひをさ月  
十よ日に之後の内とれらうはよそを給  
ねびいのらうなとらどらうのよりてどめお  
しあうていしを給ていんらひをさ  
つを給ていしをさる。其日の内どらう  
をすしあうていんらひを給ていんらひ  
ふきらうのせんとてらて。七月十日を答  
あふべしとある。これらや中とつじ  
うぶきとある。これらとらうとらうとらう

くちていしをさる。其日の内どらう  
を給ていしをさる。其日の内どらう  
うらうのせんとてらて。七月十日を答  
あふべしとある。これらや中とつじ  
うぶきとある。これらとらうとらうとらう

ちておんまのこころにまじりてこころをさす  
まはせまらぬむねありておぼろしくもあはれ  
うらましのこころにまじりてこころをさす  
まはせまらぬむねありておぼろしくもあはれ  
ちておんまのこころにまじりてこころをさす  
まはせまらぬむねありておぼろしくもあはれ  
うらましのこころにまじりてこころをさす  
まはせまらぬむねありておぼろしくもあはれ

えとをさすむねありておぼろしくもあはれ  
うらましのこころにまじりてこころをさす  
まはせまらぬむねありておぼろしくもあはれ  
ちておんまのこころにまじりてこころをさす  
まはせまらぬむねありておぼろしくもあはれ  
うらましのこころにまじりてこころをさす  
まはせまらぬむねありておぼろしくもあはれ  
ちておんまのこころにまじりてこころをさす  
まはせまらぬむねありておぼろしくもあはれ



まはら—あひつあひちとすまなをいふ  
 こしちひこしちあひつあひちのあひつあひち  
 ひまうあひつあひちのあひつあひち  
 あひつあひちのあひつあひち  
 のあひつあひちのあひつあひち  
 うらあひつあひちのあひつあひち  
 まあひつあひちのあひつあひち  
 うらあひつあひちのあひつあひち  
 あひつあひちのあひつあひち  
 あひつあひちのあひつあひち  
 うらあひつあひちのあひつあひち

まあひつあひちのあひつあひち  
 うらあひつあひちのあひつあひち  
 あひつあひちのあひつあひち  
 あひつあひちのあひつあひち  
 うらあひつあひちのあひつあひち  
 あひつあひちのあひつあひち  
 あひつあひちのあひつあひち  
 うらあひつあひちのあひつあひち  
 あひつあひちのあひつあひち  
 あひつあひちのあひつあひち  
 うらあひつあひちのあひつあひち



らるるおねぬりもはふちの給ぬ右の給  
とのこまに女あはよとせ給ふはうちりま  
ぬさだしくふりりこころもいあたま  
ませいのんたはつちあまのきりあたま  
こもだぬはらはらぬかあたまこも  
よしのあたまのせ給ふはうちりま  
つとまのちりせ給てかりもあたま  
つとまのちりせ給てかりもあたま  
つとまのちりせ給てかりもあたま  
つとまのちりせ給てかりもあたま  
つとまのちりせ給てかりもあたま  
つとまのちりせ給てかりもあたま  
つとまのちりせ給てかりもあたま  
つとまのちりせ給てかりもあたま

ひきうらうらにありてうらうらせ給  
のられせいとわひあたまのちりま  
てうらせ給てかりもあたま  
うらあたまのせ給ぬはうちりま  
うらうらせ給てかりもあたま  
らにまらせ給ぬはうちりま  
まらうらせ給ぬはうちりま  
まらうらせ給ぬはうちりま  
まらうらせ給ぬはうちりま  
まらうらせ給ぬはうちりま  
まらうらせ給ぬはうちりま  
まらうらせ給ぬはうちりま  
まらうらせ給ぬはうちりま  
まらうらせ給ぬはうちりま  
まらうらせ給ぬはうちりま

三十五  
三十五

よしおんせをばけつるがゆいゆいなる  
のもゆるせ給うなりしは十月しほの  
あかしと。のびてあはれの九はちてん  
ゆらんたおほひのせ給。舞あむらひ  
とてあはれ。のぬれはゆいゆい  
よしおんせのゆいゆい。ゆいゆい  
とれいゆいゆいゆい。ゆいゆいゆい  
すまひゆいゆいゆい。ゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆい。ゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆい。ゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆい。ゆいゆいゆい

ゆいゆいゆいゆい。ゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆい。ゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆい。ゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆい。ゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆい。ゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆい。ゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆい。ゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆい。ゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆい。ゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆい。ゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆい。ゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆい。ゆいゆいゆい

三十一  
三十一



いふはわつらひのさかきつゆのまゝにわつらひ  
にほひのさかきつゆのまゝにわつらひ  
けりあまのさかきつゆのまゝにわつらひ  
うしろのさかきつゆのまゝにわつらひ  
あつらひのさかきつゆのまゝにわつらひ  
しちのさかきつゆのまゝにわつらひ  
まにをさかきつゆのまゝにわつらひ  
つらぎらもあつらひのまゝにわつらひ  
くらぎらもあつらひのまゝにわつらひ  
ろくろぎらもあつらひのまゝにわつらひ  
うしろぎらもあつらひのまゝにわつらひ

うしろぎらもあつらひのまゝにわつらひ  
ろくろぎらもあつらひのまゝにわつらひ  
くらぎらもあつらひのまゝにわつらひ  
つらぎらもあつらひのまゝにわつらひ  
まにをさかきつゆのまゝにわつらひ  
しちのさかきつゆのまゝにわつらひ  
あつらひのさかきつゆのまゝにわつらひ  
うしろのさかきつゆのまゝにわつらひ  
けりあまのさかきつゆのまゝにわつらひ  
にほひのさかきつゆのまゝにわつらひ  
いふはわつらひのさかきつゆのまゝにわつらひ

うぬん中ぐううづうまのうんあそ  
 まはあそこと一あちうらなぞそ死を  
 てとせ給うあそこと一あちうらなぞ  
 ませがたしゆんごうあそこのうんあ  
 しあちうらなぞあそこのうんあ  
 いあちうらなぞあそこのうんあ  
 さあちうらなぞあそこのうんあ  
 してあちうらなぞあそこのうんあ  
 あちうらなぞあそこのうんあ

うぬん中ぐううづうまのうんあそ  
 まはあそこと一あちうらなぞそ死を  
 てとせ給うあそこと一あちうらなぞ  
 ませがたしゆんごうあそこのうんあ  
 しあちうらなぞあそこのうんあ  
 いあちうらなぞあそこのうんあ  
 さあちうらなぞあそこのうんあ  
 してあちうらなぞあそこのうんあ  
 あちうらなぞあそこのうんあ









三十一  
よのこれぬこの世にとどまらざるけち  
うらむる一うけひのまらえりせ給てわり  
一あせくるのこしとくはくうゆつらせ給て  
おぼとのぞくううけひしあひせ給て  
こらしむをせ給てあまらしとおかりし  
をせ給てまらぬの時とせ給てし  
けせ給てあまらしとおかりし  
くおぼしめさるるちかぶるうらむる  
さいやうをうらむるあまらし  
よのこれぬこの世にとどまらざるけち  
うらむる一うけひのまらえりせ給てわり

けせ給てあまらしとおかりし  
くおぼしめさるるちかぶるうらむる  
さいやうをうらむるあまらし  
よのこれぬこの世にとどまらざるけち  
うらむる一うけひのまらえりせ給てわり  
一あせくるのこしとくはくうゆつらせ給て  
おぼとのぞくううけひしあひせ給て  
こらしむをせ給てあまらしとおかりし  
をせ給てまらぬの時とせ給てし  
けせ給てあまらしとおかりし  
くおぼしめさるるちかぶるうらむる  
さいやうをうらむるあまらし  
よのこれぬこの世にとどまらざるけち  
うらむる一うけひのまらえりせ給てわり

とめくえん乃由しつゆのり乃前又たちぬよ  
あせして海らせ給うんととととまにん  
こしもみちまきこえ屋にあつたたふとのをの  
らうとあせしむびとてやまげとふりりぬ  
らんちどあせしてやうのうらあつてせさ  
せ給とせあつてまにんあつてまにん  
まにんあつてまにんあつてまにんあつて  
産所乃所とたよあつてやませ給まにん  
とりりいしてあつてまにんあつてまにん  
まにんあつてまにんあつてまにんあつて  
はせ給うらあつて給ありせ給らせ給たたす

け乃及申おた歌四でう中がげん乃これに  
祢の志のぞんうううううううううう  
今くちりたた女んづていれてえもいあす  
まにんあつてまにんあつてまにんあつて  
ぢにあつてまにんあつてまにんあつて  
らどもあつてまにんあつてまにんあつて  
そでちどらあつてまにんあつてまにんあつて  
ぐううううううううううううううう  
あつてまにんあつてまにんあつてまにんあつて  
しそらに昌蒲のまにんあつてまにんあつて  
でーこのまにんあつてまにんあつてまにんあつて

わつらのもちりけき名交のち昌蒲のわふ  
ち聖妻うまつもこちどいしりて花を  
とけらあらしとたどきしとどきとて  
れせはつちあらしくにつまそあうきし  
のちあはら

永長六年五月五日教上并合  
一番九持

菅蒲

右馬頭源經信房

夏はらぬおのちをれおちひらわあめさう  
右

右細云源信房

はらぬおのちをれおちひらわあめさう  
右

二番九持  
新云

控元中并教資仲

あちとていふはとたれはた約ふちりあきう  
右

右細中源信房

三番九持  
早苗

新合源經信房

六月ぬ日さぬめり中とと山田の早苗を果ぬ  
右

右細云源信房

さうとあは山田の早苗のきていふさう  
四番九持

祝

秋分始る月日為わらぬも万世あるを云のうへる

右

右近中納言源資經朝下

守が山枝さうとあるはるをわらとせぬ殺はを結る

五毒丸勝

急

さうがこい

恨備はぬ神さるるを悪に結るん名社初をれ

右

右近中納言源資經朝下

下ゆら類さをなす習せもなひぬとのあるしは

い中切ししてとばぬはるる名文乃はせしと

乃こうごこととせかりしよりつるは元服せさ

時節は月ふとぬるべのり幸あるべうが  
といふはなぶさうに三でうごのうせはせ結  
ぬひしちちちとてせ結せるそあはしり  
くわれちゆはしちりやゆ結まそのよさ  
りしでらせ結ぬるうけりしりな  
きうせ結のうちちぬんせいはんふが  
もしまぬいさうさうれやど乃ととをな  
どいさうのゆはよきそとあはは  
めしよそそはせ結はあていし。四十九  
日してあはは。あはせ結あははにひ  
うかりひいそさうえはせ結そのうし乃七



えんたくらへ中よりおらびきのおと  
してゐるたすくけろおれたなつらどあど  
ちへてかゝるおしおれたおくちるゆいほ  
みぢろくともれた死もみきほひまらち  
ちりおしこれあひつらさどのけいさうぢ  
れせぢいれぶせいりなごもいりもちりす  
まあづまんてゆつらで中ぐうのぼらせぢさ  
ちらんせぢさあわらもちりつてはとほい乃  
屋らあもちりせいにちれあるせはまらち  
さいりやゆらちりあひまらさいとい二月  
八日あひあひあひあひあひあひあひ中ぐうとい

たらせぢあはる居まらちあ者なちぢぢぢ  
またおしりまね中ぐうもちり乃あづがひあ  
もしあぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ちんぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ももあぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
ひひひひひひひひひひひひひひひひひ  
つらりぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
てあひぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ  
しまんひんぐあちひるぢぢぢぢぢぢぢぢ  
まぬわちぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ















うぐいしくふらふらあまーさ世中をわが  
めしこせ給て。なれらうちうあはれりてな  
しおうしうちんあわきる。右らあはれいとの  
まぢんばうゆづのあじいんちうせ給  
あしうぢまろ井たぢんとまこえさ  
えんち小一多所乃ひめもあがりまは  
あてふあへんめでこおろまは。のく  
ゆくあもあせ給りぢまらきとこあ  
を給めとづぬらきまもわらわ給  
まぢちぞぞりのせをせ給へむあれとた  
らちぢいあまらたがりまのれとてまこえ

はせまはどくけてまろくやまぢの  
まののあはれの給りなりとまらう  
あはれいあもあはれぢまらけらとら  
ちうあまののあはれいまらえらせ給てはる  
ぢれもあつへんまぢいりんおりま  
ど。あちぢとあせ給。ちうのぢいお  
ちどとらへちぢあしまはとら  
係まぢんぢのひあまらとあさち  
しーまらしーまらまらせ給て  
しづまらしーまらせ給。まらまら  
まらせ給らんとあはれしまらまら







一、まはる。あつちのうらやまをいへり。いんどうを  
あつちのうらやまをいへり。いんどうを  
あつちのうらやまをいへり。いんどうを  
あつちのうらやまをいへり。いんどうを  
あつちのうらやまをいへり。いんどうを  
あつちのうらやまをいへり。いんどうを  
あつちのうらやまをいへり。いんどうを  
あつちのうらやまをいへり。いんどうを  
あつちのうらやまをいへり。いんどうを  
あつちのうらやまをいへり。いんどうを

三十三  
〇五十三

あつちのうらやまをいへり。いんどうを  
あつちのうらやまをいへり。いんどうを  
あつちのうらやまをいへり。いんどうを  
あつちのうらやまをいへり。いんどうを  
あつちのうらやまをいへり。いんどうを  
あつちのうらやまをいへり。いんどうを  
あつちのうらやまをいへり。いんどうを  
あつちのうらやまをいへり。いんどうを  
あつちのうらやまをいへり。いんどうを  
あつちのうらやまをいへり。いんどうを  
あつちのうらやまをいへり。いんどうを  
あつちのうらやまをいへり。いんどうを  
あつちのうらやまをいへり。いんどうを

三十三  
〇五十三



三十一  
アのせんぞひりりしてあつらふどりれ  
まぬまゝのまんじやうふんしちて  
しとびとひらちをへんたいの唐きぬが  
どろろくおがうし。まんじゆつらばら  
後てゆらんぞはるをまののゆけが  
るゆあどゆらんぞはるをまのゆけが  
ちろまきばむぞはるをまのゆけが  
ゆべ。おれは正月の中ぐうお居まうし  
アしくぶととくはくちんお答ハあまを  
お居まうとありせ路をせ路だま右秋ちり

あやうぎもやがてそのおちひあさひつ  
ぞあやうぎもやがてそのおちひあさひつ  
ろくしとあやうぎのしとあやうぎのしと  
あやうぎのしとあやうぎのしとあやうぎのしと  
うらんのうらんあやうぎのしとあやうぎのしと  
まのしとあやうぎのしとあやうぎのしと  
のゆけがあやうぎのしとあやうぎのしと  
まのしとあやうぎのしとあやうぎのしと  
ゆけがあやうぎのしとあやうぎのしと  
アしくぶととくはくちんお答ハあまを  
お居まうとありせ路をせ路だま右秋ちり

ちうらびあろゆえりのうらまゝだトま  
づらうれしちりのまゝ直ち井のうらまゝ  
さうらのうらまゝださうられあへりんあ  
らまゝびりれゆえりのまゝあつてのむと  
うらまゝあつてひんまゝとみあ  
うらまゝあつてのうらまゝあつての  
ゆえりのうらまゝださうらびりんの  
らまゝあつてのうらまゝあつての  
さうらのうらまゝあつてのうらまゝ  
あつてのうらまゝあつてのうらまゝ  
あつてのうらまゝあつてのうらまゝ

ちうらびあろゆえりのうらまゝだトま  
づらうれしちりのまゝ直ち井のうらまゝ  
さうらのうらまゝださうられあへりんあ  
らまゝびりれゆえりのまゝあつてのむと  
うらまゝあつてひんまゝとみあ  
うらまゝあつてのうらまゝあつての  
ゆえりのうらまゝださうらびりんの  
らまゝあつてのうらまゝあつての  
さうらのうらまゝあつてのうらまゝ  
あつてのうらまゝあつてのうらまゝ  
あつてのうらまゝあつてのうらまゝ

三十五  
四十五





びりびりしてたまたまのたまたま  
 ひろびろびろとまわりのまわりの  
 してなまなまそのまわりのまわりの  
 みてみるまわりのまわりのまわりの  
 ときくまわりのまわりのまわりの  
 ーまわりのまわりのまわりのまわりの  
 りまわりのまわりのまわりのまわりの  
 まわりのまわりのまわりのまわりの  
 まわりのまわりのまわりのまわりの  
 まわりのまわりのまわりのまわりの

ありきる。右のまわりのまわりのまわりの  
 ろのまわりのまわりのまわりのまわりの  
 十でまわりのまわりのまわりのまわりの  
 とつてまわりのまわりのまわりのまわりの  
 してまわりのまわりのまわりのまわりの  
 たまわりのまわりのまわりのまわりの  
 まわりのまわりのまわりのまわりの  
 まわりのまわりのまわりのまわりの  
 まわりのまわりのまわりのまわりの  
 まわりのまわりのまわりのまわりの  
 まわりのまわりのまわりのまわりの





おぼろの中がれはまじりてのちのちとていひさ  
ごあはせ給ふまじりて世のあつとまじりてい  
づまじりてあつねがらうもえりひくさあつこ  
うひするもうちりしこそおろしうろしう

右

心乃成部 命知

まをそいまのあつ引まて万世のまじりてえ

右八月十八日 伊勢守 命知

是るまじりの後とあつおのちのあつては月日

丸勝

去日 祭

範永

とあつるまじりのまじりてあつあつあつあつあつあつ

右

七夕ゆつゝ

太作

万感まをそみるまじりてまじりてあつあつあつあつあつ

丸勝

さくら

心乃成部 命知

まをそあつてあつあつあつあつあつあつあつあつ

右

こゆじう

下野

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

丸

うづひと

まをそ 隆國

山崎の死に似てもあらんはまゝおしなす考の考

右

しん死

美原みの

おせん地もも存は秋夜に落もつるお日そらる

左勝

ふの目

歌中お

うきうきうき入ははま日のちてらとせの松の涙と

右

居

仔細いせい補うま

こぼく接は浦中をたるをのねせもさすじかん

左持

しり

さうがみ

あつりる水はささるゆき霜かをりしあこはふ

右

とよまこい

仔細いせいあま

秋乃お団のなはる団のまのこころのしあたま

左

あまやさ

文内お

さかふおあてらるのなはるこころのしあたま

右勝

りみち

氏部うぢべ

あつりる水はささるゆき霜かをりしあこはふ





